

コード	402070601
記入日	H23.6.6

課コード	115
課名	農林課
課長名	幹 保孝
担当者	深浦 勝彦

事務事業事後評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	林道桂山線舗装事業
----------	-----------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 16 年度 ~ 平成 22 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	402	施策名称	農林業の振興	項コード	2
基本事業コード	40207	基本事業名称	林業の環境整備	目コード	3
事務事業コード	4020706	事務事業名称	国庫補助事業費（林道舗装）	細目コード	915
関連計画	法令・条例規則等		森林法、長崎県林道事業補助金交付要綱		

計画 (PLAN)								
※単年度事業及び単年度繰返事業については、全体欄を****とする。								
対象：誰、何を対象にしているのか				対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 森林所有者				(対象指標1) 156名				
(対象2)				(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入				活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)		(評価年度実績)		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
・ 全体事業 →舗装延長 L=5,732m →舗装幅員 W=4.0m		・ 平成22年度実施事業 →舗装延長 L=409m →舗装幅員 W=4.0m		舗装延長	5,732m	100%	舗装延長+舗装計画延長	平成22年度
				舗装延長	409m	100%		平成22年度
				① (達成率分析)	計画どおりに実施できた。			
				② (達成率分析)				
目的：何をしたいのか				成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
				(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
				舗装率	92.8%	100%	舗装率+計画した舗装率	平成22年度
				舗装率	7.2%	100%		平成22年度
				① (達成率分析)	計画どおりに実施した。			
				② (達成率分析)				
<p>・ 本路線は、平成12年度に全線開通し林業施業に利用されてきた。しかし、降雨による路面浸食、土砂の流失によって側溝が埋没し維持管理に多大な努力、経費を要している。また、側溝埋塞による林道本体への被害も発生している。よって、舗装事業を実施し維持管理に係る努力、経費の軽減及び災害防止を図るものである。</p>								

実施 (DO)							
※単年度事業及び単年度繰返事業については、評価実績年度及び全体計画欄のみ記載する。							
	単位	全体計画 H 16 ~ H 22		21年度以前	22年度		
		計画	実績	実績	計画	実績	
活動指標	①	m	5,732	5,732	5,323	410	409
	②						
成果指標	①	%	100	100	93	100	100
	②						
総事業費 C (A+B)	千円	223,439	221,439	187,739	35,700	33,700	
直接事業費 A	千円	189,139	187,139	158,339	30,800	28,800	
人件費 B	千円	34,300	34,300	29,400	4,900	4,900	
内訳	従事職員数	人	4.9	4.9	4.2	0.7	0.7
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円	85,515	81,767	71,115	14,400	10,652
	県補助金	千円	17,583	16,833	14,703	2,880	2,130
	起債	千円	70,200	67,800	59,300	10,900	8,500
	その他	千円					
一般財源	千円	50,141	55,039	42,621	7,520	12,418	

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありましたか。	● はい いいえ	理由	林道管理者である町が実施すべきである。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありましたか。	● はい いいえ	理由	林道の維持管理及び林業施業の効率化を図るために必要である。
	・事業の対象・目的は適切でしたか。	● はい いいえ	理由	森林所有者とすることで適切であった。
有効性	・事業の目的は達成されましたか。	● はい いいえ	理由	舗装済区間では、路面の補修が不要となり目的は達成された。
	・成果を向上させる余地はありませんでしたか。	● はい いいえ	理由	本事業は計画どおりに進捗したため向上させる余地はない。
	・事業を行わない場合の影響はありませんでしたか。	● はい いいえ	理由	未舗装区間では、路面が荒れており車両交通に支障をきたし、森林作業の効率化が困難となる。
	・類似事業との整理統合はできませんでしたか。	● はい いいえ	理由	単一の事業であり他の事業との整理統合はできない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんでしたか。	● はい いいえ	理由	最小の経費で最大の効果を得る設計となっておりできない。
	・人件費を削減することはできませんでしたか。	● はい いいえ	理由	最小の人員で事業を進捗しているため削減できない。
	・受益者負担は適正でしたか。	● はい いいえ	理由	受益者負担は発生しない。

改善 (ACTION)

1 次 評 価	○今後の関連事業に対する改善点	特になし。
	○目的が達成されていない場合の課題と改善策	特になし。
2 次 評 価	林道環境整備は、林道施業及び森林作業の効率化を図り、また災害防止につながるものであり、今後も地域の意見を把握しながら、また林道管理責任を果たすものとして、費用対効果や緊急性も含め総合的に判断し、計画的な林道整備・維持管理に努めること。	

住民等の意見	
町の対応	

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。